

## 特集 コンソ・プラザ (2020年度)

### コンソ・プラザのオンライン化

交流推進委員会 委員長  
田端 淳



建築研究開発コンソーシアムでは、先端分野の動向等会員にとって興味ある有益なテーマやトピックスに関する情報の共有や交換の場を設け、会員の交流を促進し研究会の発足等に繋げることを狙いとして、コンソ・プラザを開催しています。コンソ・プラザでは、一般講演会、建築研究所講演会、見学会、テクニカル・フォーラム（研究会立上げを前提とした講演会）を開催しています。

2020年春先に始まった感染症の流行は、講演会、見学会の開催方法を大きく変えることになりました。これまで、講演会は講演者、参加者が一堂に会し、資料配布の上、スクリーンの映像を利用して講演する集會式で実施してきました。見学会は、参加者に見学施設までご参集いただき、施設の担当者が案内、説明する形で行っていました。これに対し、感染並びに感染拡大防止のため、密集、密接、密閉を避けることが求められ、従来形式の講演会、見学会を開催することができない状況となりました。

この対応のため、講演会についてはオンライン方式の実施を模索しました。アプリケーションの検討、資料の形式や配布方法、質疑応答のルールなど、未知の領域で手探りを繰り返し、7月に1回目のオンライン講演会を迎えました。講演者、参加者、事務局の操作するパソコンやタブレットがネットワークで繋がり、トラブルなく講演会を終了することができました。講演会の詳細は次ページに譲りますが、参加者の

皆様には好評をいただきました。オンライン講演会は実施してみると、当初考えていたほどには大きな支障がないことが分かりました。

2020年度は一般講演会4回、建築研究所講演会4回を開催しましたが、1回は集會式とオンライン講演会の同時開催、他の回は全てオンライン講演会となりました。オンライン講演会には、会場から遠方の方が参加しやすくなる、参加者が多くなっても対応できる、等のメリットがあります。一方で、集會式の講演には、講演者の雰囲気を感じられる、質疑応答が行い易い等のメリットがあります。感染症が収まった後も、オンライン講演会や、集會式とオンラインを併用する講演会など、これまでとは異なる方法での講演会の開催を積極的に検討いたします。

見学会は、実際にその場を訪れて施設等を見るイベントのため、講演会とは異なり、オンラインによる開催は難しく、2020年度は4回の計画のうち2回を中止し、1回のみをオンライン見学会として実施しました。臨場感など空間的な印象については、従来の見学会とは差があるようですが、案内者が実際にルートを巡って映像を配信する方式のため、リアルタイム感を感じられる等の評価をいただきました。施設側にとっては、どこをどのように写すか、カメラのブレ防止対策など、従来の見学会以上の準備が必要と思われます。オンライン見学会の関しては、参加者の集合が難しい環境下でも開催できるメリットはあるものの、課題もまだ多いように思われ、今後、検討を重ねたいと考えます。

多くの会員の皆様にご参加いただけるコンソ・プラザを実現できるよう、内容に加えて、形式についても検討を進めてまいります。

### 2020年度コンソ・プラザ開催イベント一覧

	方法	開催日	テーマ(講師)、見学先
一般講演会	1	オンライン	2020.07.06 端島(軍監島)における調査と今後の展開(東京理科大、今本啓一教授)
	2	オンライン+集會式	2020.10.19 快適・健康・安全なすまいのつくりかた(芝浦工大、秋元孝之教授)
	3	オンライン	2020.11.10 空間資源大国ニッポン(東京大学、松村秀一特任教授)
	4	オンライン	2021.03.03 頻発する水害に住民はどう備えればいいのか?(防災科研、酒井直樹氏)
建研講演会	1	オンライン	2020.11.02 材料的観点から見る鉄筋コンクリート造建築物の健全性(建築研究所、松沢晃一氏)
	2	オンライン	2021.01.21 データ分析から見る音や省エネの世界(建築研究所、平川 侑氏)
	3	オンライン	2021.02.15 宙(ソラ)から、空(ソラ)から、地震時の市街地被害の迅速マッピング技術の開発と試験運用について(建築研究所、阪田知彦氏)
	4	オンライン	2021.03.17 既存鉄筋コンクリート造建築物のリノベーション技術におけるあと施工アンカーの利活用に関する研究動向(建築研究所、向井智久氏)
見学会	1	現 地	2020.08.09-10 NIPPON GALLERY TABIDO MARUNOUCHI
	2	オンライン	2020.12.26 大阪ガス実験集合住宅Next21

## コンソ・プラザ講演会のオンライン開催

コンソ・プラザでは、一般講演会と建築研究所講演会があります。2020年度は前頁の表に示すように、両方ともオンライン開催に挑戦しました。

一般講演会のオンライン化では、建築研究所講演会よりもオンラインに不慣れな一般の方も参加されるので、参加者にマイクとカメラを使用させないZoomウェビナーを使いました。一般講演会でのオンライン化にどう取り組んだのかをご紹介します。

### ①オンライン講演会に挑戦

7月6日に、初めてのオンライン講演会に挑戦しました。本講演会は4月開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で3か月遅れでの開催になりました。

オンライン講演会に慣れていない方用にトリトンスクエア晴海の講演室でも聴講できるように企画しました。しかし、講演会直前に、トリトンスクエア晴海内勤務者の新型コロナウイルス感染が判明したため、講演室に来ていただくイベント開催は好ましくないと考え、急遽参加方式をオンラインのみに変更しました。

スムーズな進行のために、予めご用意いただいた録画コンテンツを配信し、質問にはリアルタイムで回答いただきました。不手際もありましたが、オンライン講演会は実施できそうだという感触を得ることができました。

### ②集會式とオンラインの講演会を同時開催に挑戦

2回目はトリトンスクエア晴海の講演室に講師の秋元先生と聴講者に来ていただき、集會式とオンラインの講演会を同時開催しました。この講演会は集會式の講演会として企画したのですが、オンラインでも開催して欲しいという要望をうけ、急遽同時開催になりました。集會式の講演会の参加には所属会社から許可がおりないとのものでした。

同時開催では、会場参加者への音声とオンライン参加者への音声の届け方に苦労しました。会場用の置きマイクとオンライン用のピンマイクを併用しました。

オンライン参加者は33人に対して、講演室での聴講者4人でした。講演室が少々寂しく感じました。オンライン参加者への講演会後のアンケート(29名回答、匿名)では、回答者全員よりオンライン参加に対して良かったと評価されました。

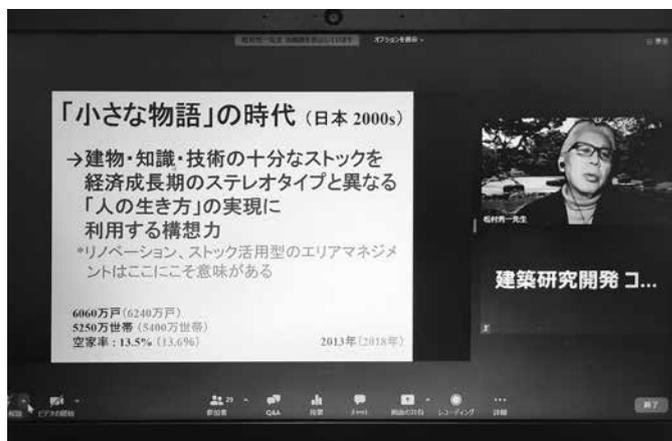
### ③オンライン講演会

3回目と4回目は参加方法をオンラインのみとして募集し、実施したオンライン講演会でした。3回目の講演会では講師からオンライン開催を希望されました。ご講演も質疑応答もすべてリアルタイムで行いました。

3回目開催当時は、トリトンスクエア晴海勤務者から陽性判明者が頻繁に確認されていたので、講演室のスクリーンに講師と資料を映すビューイング方式も企画できませんでした。4回目は新型コロナウイルス感染が収まった後の開催方法に関するアンケートを実施し、全員がオンライン化を希望していることがわかりました。



集會式とオンライン講演会同時開催時の集會式講演会の様子



リアルタイムのオンライン講演の配信画像例(右上は講演中の講師の画像)

## コンソ・プラザ見学会のオンライン開催

コンソ・プラザでは見学会を開催しています。2020年度は4回の見学会を企画しましたが、2回は延期・中止となりました。実施できた2回のうち、1回は大阪ガス様のご協力により、大阪ガス実験集合住宅Next21をオンラインで見学させていただきました。参加者は48名でした。

従来の見学会のように、最初に建物概要の説明を受け、カメラを構えたガイドの方と一緒に移動しているような感じがありました。配信画像を見ながら、移動説明を聞きました。このオンライン見学会では、Zoomウェビナーを用いておられたので、口頭での質問はできませんでした。見学会後にチャットでの質問時間があり、盛り上がりました。



「質問は最後にチャットで受け付ける」という案内を提示しているオンライン見学会開始時の配信画像

## 1. 分野・業種連携人材育成事業

研究開発人材育成プログラムの「MOT 半日コース」を1回(12/11)、「5日間コース」を1回(9/4・18、10/2・16・30)、オンラインで実施した。「MOT 半日コース」は出川通氏による講義を行った。31名が参加し、MOTの分かりやすい説明とご自身の体験を交えての講義に、受講者からの評価も高く、好評であった。

「5日間コース」の受講者は17名であった。プログラムの内容は、MOTの紹介、村上特別顧問特別講義、国のビジョン、生活定点観測調査及び先輩研究者による講義「私の研究開発履歴書」とグループワークを行った。グループワークでは、オンラインホワイトボードを共有しながら、参加者全員で議論する場となるよう、進め方を工夫した。また、参加者の交流の場として最終日にオンラインでの懇親会を実施した。

## 2. コンソ・プラザ

先端分野の動向等会員にとって興味ある有益なテーマ、トピックスに関する情報の共有や交換の場を設け、会員の交流を促進し研究会の発足等に繋げることを狙いとして開催した。

### ①一般講演会

会員への情報提供の一環として、タイムリーなテーマと講師を選定し4回開催した。参加者は延べ132名で、参加率は88%であった。

具体的には「端島(軍監島)における調査と今後の展開」、「快適・健康・安全なすまいのつくりかた」、「空間資源大国ニッポン」、「頻発する水害に住民はどう備えればいいのか?」の4テーマ。

### ②建築研究所による講演会

国立研究開発法人建築研究所の建築研究報告等の講演会を報告書等の発表に合わせて4回開催した。参加者は延べ312名で、参加率は101%であった。

具体的には「材料的観点から見る鉄筋コンクリート造建築物の健全性」、「データ分析から見る音や省エネの世界」、「宙(ソラ)から、空(ソラ)から、地震時の市街地被害の迅速マッピング技術の開発と試験運用について」「既存鉄筋コンクリート造建築物のリノベーション技術におけるあと施工アンカーの利活用に関する研究動向」の4テーマ。

### ③見学会

話題性のある施設を選定し2回開催した。参加者は延べ63名で、参加率は91%であった。具体的には



NIPPON GALLERY TABIDO MARUNOUCHI 見学会の様子

「NIPPON GALLERY TABIDO MARUNOUCHI」、「大阪ガス実験集合住宅Next21」(オンライン)の2施設であった。

### ④テクニカルフォーラム

今年度は具体的な提案がなく開催されなかった。

## 3. 研究企画ミーティング

国立研究開発法人建築研究所 住宅・都市研究グループ木内望主席研究監により「水害対策分野」というテーマで2回実施した。第1回(9/23)では、①建築・都市分野での水害対策、②浸水被害をうけた戸建住宅の補修の実態と課題、③豪雨災害に備えた実大木造住宅の耐水害性能に関する実験的研究についての話題提供と意見交換を行った。

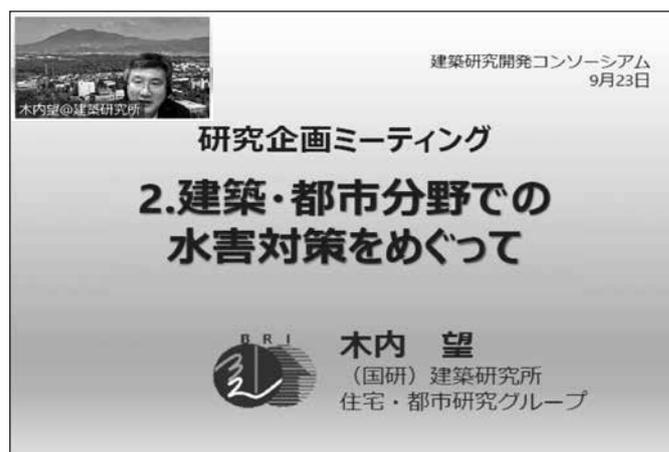
第2回(1/15)では、①水害リスクと浸水想定：建築物の水害対策にどう生かすか、②建築分野における津波浸水シミュレーションの活用と洪水対策への応用の可能性、③浸水防止設備の止水性能の評価・試験方法とその規格化についての話題提供と意見交換を行った。2021年度に第3回を実施予定である。

## 4. 研究会

研究会については、継続19テーマに新規9テーマを加えた計28テーマを実施した。新規テーマのうち、アイデアコンペから成立した研究会が6テーマ、コラボレーション・ミーティングから成立した研究会が1テーマ、会員からの提案で成立した研究会が2テーマであり、その成立過程や研究内容も多岐にわたり、研究活動が活性化した。

## 5. 研究助成制度

研究助成制度は、研究推進活動の一環として、社会的ニーズに対応した会員間の研究の一層の促進を図ることを目的に、「防災地下シェルターの普及に関する研究」、「小規模建築物における地盤判定品質向上のための不同沈下リスク評価技術の検証実験」、「テラヘルツ波非破壊検査技術の応用法検討」、「認知症の人のための住環境ガイドラインの作成」、「建築内装用サンドイッチパネルの中規模火災試験方法：JIS A1320に基づく評価基準案の再検討のための研究」、「既存擁壁背面地盤の補強工法の開発に向けた補強効果の検証実験」、「縦り振動に対する建物・地盤系の振動伝達特性の把握と研究」、「簡単に移設して継続利用が可能な「移動式小規模建築物」に関する研究」の8件を採択し合計で約400万円の助成を行った。



研究企画ミーティング(第1回)の配信画面例

## 分野・業種連携人材育成事業募集のご案内

建築研究開発コンソーシアムでは平成25年度より新規事業として、研究開発に従事されている方で担当者レベルからマネージャーに進む段階の方の人材育成を目的として、「分野・業種連携人材育成事業」を立ち上げ、実施して参りました。



5日間コース初日の配信画面例

「MOT半日コース」は過去6回で、計206名の方に参加いただいております。「5日間コース」は過去14回で、計219名の方に参加いただきました。毎回、大変高い評価を頂いており、2021年度も引き続き実施して参ります。今年度は下表の通り開催予定でたぐいま参加募集中です。

		定員	募集締切	開催日				
MOT半日コース		40名	4/16	5/14				
5日間コース	1回目	15名	4/9	5/21	6/4	6/18	7/2	7/16
	2回目	15名	4/9	10/1	10/15	10/29	11/12	11/26

### ▲共に申込先は下記のとおり

建築研究開発コンソーシアム事務局  
 人材育成プログラム担当 星野  
 E-mail : human@conso.jp

## 2020年度建築・住宅技術アイデアコンペ(第18回)

2020年度のアアイデアコンペは、10件の応募があり、2021年1月25日(月)の1次審査会(査読結果審議他)及び同2月19日(金)の2次審査会(ヒアリング他)を経て、最優秀賞1件、優秀賞2件、審査員特別賞1件、佳作3件が選定されました。



受賞者と審査委員長(緑川会長)、インキュベーション委員会伊藤委員長

賞	提案タイトル(代表提案者)
最優秀賞	総合住宅展示場の災害拠点化 [井村 理恵氏 旭化成ホームズ株式会社]
優秀賞	CLTを使った新しい木造住宅用構造システム「在来軸組CLTフラットスラブ構法」の開発 [古田 智基氏 西日本工業大学]
	実空間を想定した感染症対策の効果および安全性評価 [藤本 卓也氏 大和ハウス工業株式会社]
審査員特別賞	都市の老朽化した建物を防災公園化することによる周辺不動産価値向上のデータ蓄積に関する研究 [高島 健史氏 旭化成ホームズ株式会社]
佳作	モバイルユニットを用いた被災地復興支援拠点の構築に係る要求仕様の研究 [吉崎 遼氏 ミサワホーム株式会社]
	建築物の振動制御効果についての定量評価手法および指標策定 [山本 雅史氏 株式会社竹中工務店]
	品質確保および残コンクリート抑制を考慮した工事現場練りコンクリートの製造 [渡邊 悟士氏 大成建設株式会社]

## 新会員紹介

(※入会順)

### 準会員

- ・日本ハプテム株式会社  
代表者：小野 修吾  
所在地：東京都千代田区神田淡路町1-5 二引ビル5階
- ・會澤高圧コンクリート株式会社  
代表者：會澤 祥弘  
所在地：北海道苫小牧市若草町3丁目1番4号

- ・押出発泡ポリスチレン工業会(Ⅰ種情報会員から変更)  
代表者：有友 完  
所在地：東京都港区新橋5-8-11 新橋エンタービル7F

### 学会会員

- ・小山 祐司氏 (一社)埼玉いえ・まち再生会議 理事

### Ⅱ種報会員

- ・瀬戸 礼子 株式会社テクノバ

## CBRD News Letter 42号

発行日：2021年3月31日  
 編集：建築研究開発コンソーシアム 交流推進委員会  
 発行：建築研究開発コンソーシアム 事務局

## CBRD 建築研究開発コンソーシアム

〒104-6204 東京都中央区晴海1-8-12 トリトンスクエア Z棟 4階  
 TEL: 03-6219-7127 FAX: 03-5560-8022  
 E-mail : conso@conso.jp(代表) Home Page : https://www.conso.jp/